

近年、がん免疫療法の進歩が著しく、特に、抗 programmed death 1 (PD-1) / programmed death ligand 1 (PD-L1) 抗体や抗 cytotoxic T-lymphocyte-associated protein 4 (CTLA-4) 抗体薬などの免疫チェックポイント阻害薬が複数のがん種において有効性を示している。胃がんにおいてもニボルマブがプラセボに対する全生存期間 (OS) 延長効果を示し (ATTRACTION-2 試験)¹⁾、本邦において 2017 年 9 月に承認された。一方、ATTRACTION-2 試験におけるニボルマブの奏効率は約 10% 程度であり、約半数の症例においては治療早期に病勢増悪を認める。さらに複数のがん種において、一部の症例で、免疫チェックポイント阻害薬投与後に急速な腫瘍増悪 (hyperprogressive disease ; HPD) を呈する可能性が示唆されている。従って、免疫チェックポイント阻害薬への感受性の検討やより高い治療効果が得られ HPD を抑制する併用療法の開発が急務である。

胃がん免疫チェックポイント阻害薬の感受性予測

Key words

胃がん／免疫チェックポイント阻害薬／バイオマーカー

川添彬人

Akihito KAWAZOE

国立がん研究センター東病院消化管内科